



27:30 イサクがヤコブを祝福し終わり、ヤコブが父イサクの前から出て行くとすぐに、兄のエサウが獣から戻って来た。

27:31 彼もまた、おいしい料理を作つて、父のところに持つて來た。そして父に言つた。

「お父さん。起きて、息子の獲物を召し上がってください。あなた自ら、私を祝福してくださいるために。」

27:32 父イサクは彼に答えた。「だれだね、おまえは。」彼は言つた。「私はあなたの子、長男のエサウです。」

27:33 イサクは激しく身震いして言つた。
「では、いったい、あれはだれだったのか。獲物をしとめて、私のところに持つて來たのは。おまえが來る前に、私はみな食べてしまい、彼を祝福してしまつた。彼は必ず祝福されるだろう。」

27:34 エサウは父のことばを聞くと、声の限りに激しく泣き叫び、父に言つた。「お父さん、私を祝福してください。私も。」

27:35 父は言つた。「おまえの弟が来て、だましたのだ。そしておまえへの祝福を奪い取つてしまつた。」

27:36 エサウは言つた。「あいつの名がヤコブというのも、このためか。二度までも私を押しのけて。私の長子の権利を奪い取り、今また、私への祝福を奪い取つた。」また言つた。「私のためには、祝福を取つておかなければならぬのですか。」

27:37 イサクは答えてエサウに言つた。「ああ、私は彼をおまえの主とし、すべての兄弟を彼にしもべとして与えた。また穀物と新しいぶどう酒で彼を養うようにした。わが子よ、

おまえのためには、いったい何ができるだろうか。」

27:38 エサウは父に言つた。「お父さん、祝福は一つしかないのですか。お父さん、私を祝福してください。私も。」エサウは声をあげて泣いた。

27:39 父イサクは彼に答えた。「見よ。おまえの住む所には地の肥沃がなく、上から天の露もない。」

27:40 おまえは自分の剣によって生き、自分の弟に仕えることになる。しかし、おまえが奮い立つなら、おまえは自分の首から彼のくびきを解き捨てるだろう。」

27:41 エサウは、父がヤコブを祝福した祝福のことで、ヤコブを恨んだ。それでエサウは心の中で言つた。「父の喪の日も近づいている。そのとき、弟ヤコブを殺してやろう。」

27:42 上の息子エサウの言ったことがリベカに伝えられると、彼女は人を送り、下の息子ヤコブを呼び寄せて言つた。「兄さんのエサウが、あなたを殺して鬱憤を晴らそうとしています。」

27:43 さあ今、子よ、私の言うことをよく聞きなさい。すぐに立つて、ハランへ、私の兄ラバノのところへ逃げなさい。

27:44 兄さんの憤りが収まるまで、おじラバノのところにしばらくとどまつていなさい。

27:45 兄さんの怒りが収まって、あなたが兄さんにしたことを見たが忘れたとき、私は人を送つて、あなたをそこから呼び戻しましょう。あなたたち二人を一日のうちに失うことなど、どうして私にできるでしょう。」

27:46 リベカはイサクに言つた。「私はヒツ

タイト人の娘たちのこと、生きているのがいやになりました。もしやコブが、この地の娘たちのうちで、このようなヒッタイト人の娘たちのうちから妻を迎えるとしたら、私は何のために生きることになるのでしょうか。」

イサクはだまされ間違つてヤコブを祝福してしまつた。頼りない族長であり、またリーダーです。その中でもイサクから学ぶことはあります。それは神への誠実です。一度自分が祝福して願つたことは、安易に変更したりできないという、真剣さが彼にはあります。

それに対してエサウは自分が神の祝福を放棄しましたが、それを後で求めているところからすれば、初めからいい加減な気持ちで放棄すると言つたのでしよう。

誰でも発言や責任をあいまいにしてしまいたいときもあります。しかし神様に祈るとき、また決断するとき、約束するとき、意思を表明するとき、私たちは常に神の前であることを忘れずに真剣・誠実でありたいと思います。

エサウは自分の浅はかさから出たことでもあるのに全てをヤコブのせいにして恨みました。人は希望に反する方向にことが進むと、自分を被害者のように思い、加害者である周囲が悪いと考える傾向があります。しかし神様の目で見ることのできるクリスチヤンは、希望を持ちつつ冷静に、自分の非を教えてもらうことができるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？